

伊那谷南部におけるアオスジアゲハの分布

井原 道夫*

Records of *Graphium sarpedon nipponum* (Fruhstorfer, 1903) (Lepidoptera, Papilionidae)
in the southern part of Nagano Prefecture
Michio IHARA*

* 〒395-0004 長野県飯田市上郷黒田571

伊那谷南部域におけるアオスジアゲハの分布についてまとめた。その結果、連続した発生は天龍村のみで確認されたが、飯田市や豊丘村では一時的な発生がみられ、飯田市では野外での越冬も確認された。

キーワード アオスジアゲハ、伊那谷南部、分布、発生

1. はじめに

伊那谷南部からのアオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum* (Fruhstorfer, 1903) の記録は、前澤 (1907) が最初である。採集データはないが、下伊那郡に生息する蝶類の目録の中に「アオスジアゲハ」として記載されている。この記録は、長野県内で最初に発表されたアオスジアゲハの記録である。次いで榎田 (1934) が「前澤氏の御教示によれば、下伊那郡泰阜付近に僅かに産する」と報告している。その後、上村、飯田市、根羽村での採集・目撃記録が報告された (浜, 1971・信州昆虫学会, 1973・井原・白鳥, 1973)。

1971年には県南端の天龍村で発生を確認、翌1972年には越冬も確認した (井原・白鳥, 1973)。その後天龍村では数例の記録が報告されている (蛭川, 1991)。

天龍村以外での発生についての記録はこれまでのところ報告されていない。ここでは伊那谷南部での成虫の採集・目撃記録、そして発生に関する観察記録について報告する。

本報告を書くにあたって、調査に同行してくれた白鳥一樹・浜正彦・四方圭一郎の各氏、現地調査に協力してくれた大平千佳・毛涯章平の各氏、採集・目撃記録を提供してくれた井原信・山田拓・井原治文・桐生雄介の各氏に厚くお礼申し上げます。

2. 調査方法

調査範囲は天龍村を中心として、伊那谷南部域を対象とした。食樹であるクスノキ・ヤブニッケイ等の分

布調査を行い、これにアオスジアゲハの発生の有無を確認した。

3. 結果および考察

(1) 成虫の採集・目撃の記録

図1、表1は伊那谷南部において採集・目撃された記録をまとめたものである。筆者自身が標本の確認、あるいは直接話を聞いたもののみを記録した。

1965年から2000年までの間に19例の記録があった。天龍村から飯島町まで記録が散在していることがわかり、成虫の移動性が高いことが推測される。

2000年には、安定して発生している天龍村以外で5例の採集・目撃例があり、長野県内での発生個体数が増加したことが考えられた。

記録は4月下旬から9月中旬にかけて見られた。特に8月に記録が集中しており、16例中10例が8月の記録であった。記録の状態から第1化が4月下旬から5月に、第2化が7月下旬から9月上旬に発生したと思われる。2化目の成虫の個体数が増加するため、8月の記録が多いと考えられる。これは、飛来成虫による一時的な発生を裏付けるものである。

また、これまでの飼育経験から、9月に第3化の成虫が羽化することがあり、2000年9月13日の目撃個体は第3化の可能性も考えられた。

(2) 発生の記録

図1、表2は発生に関する記録をまとめたものである。1975年以降も天龍村平岡ではほぼ連続して発生しており、具体的なデータを取っていなかったため、今

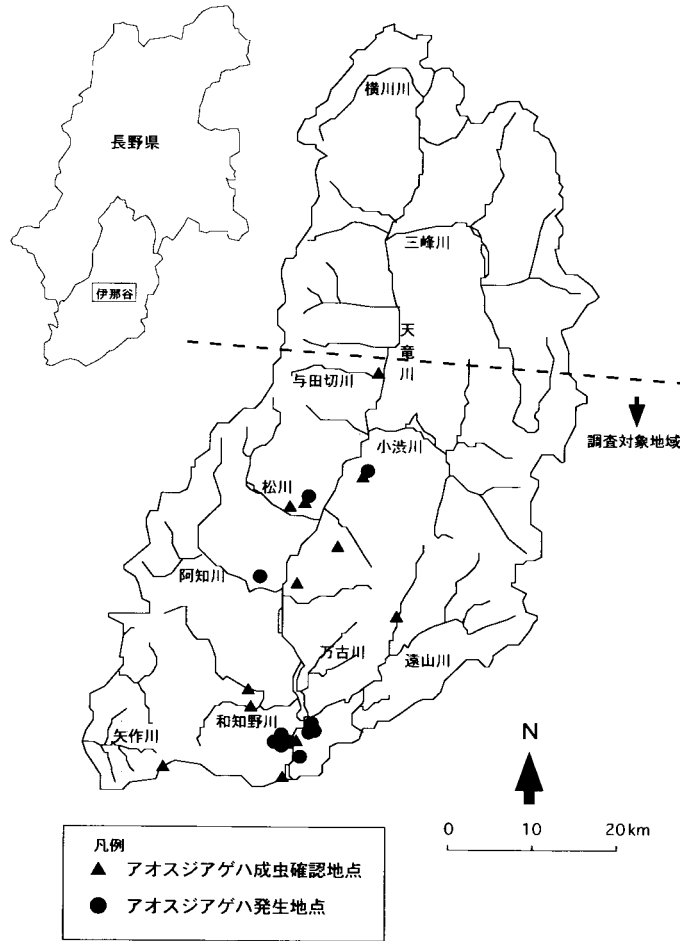


図1 伊那谷南部におけるアオスジアゲハ成虫確認地点および発生地点

表1 アオスジアゲハの成虫採集・目撃記録

| 年 月 日 | 場 所 | 記 録 | 行 動 | 記 録 者 | 文 献 |
|-----------|----------|------|--------------|-------|--------------|
| 1965 5 15 | 飯田市 千代 | 1♂ | | 林重一 | 信州昆虫学会(1973) |
| 1967 8 11 | 上村 上町 | 1♂ | | 中島平一 | 信州昆虫学会(1973) |
| 1980 8 12 | 上郷町 黒田* | 成虫目撃 | 産卵 | 井原道夫 | 田下ほか(1999) |
| 8 13 | 上郷町 黒田* | 成虫目撃 | 産卵 | 井原道夫 | |
| 1984 8 25 | 上郷町 黒田* | 成虫目撃 | 吸蜜(ヤブカラシ) | 井原信 | |
| 8 26 | 上郷町 黒田* | 成虫目撃 | | 井原道夫 | |
| 1991 7 6 | 天龍村 福島 | 成虫目撃 | 産卵 | 井原道夫 | |
| 1993 8 31 | 飯島町 | 成虫目撃 | | 井原道夫 | |
| 1994 5 29 | 天龍村 平岡 | 成虫目撃 | | 井原道夫 | |
| 1988 9 8 | 天龍村 鶯巣 | 成虫目撃 | 産卵 | 井原道夫 | |
| 1998 4 29 | 阿南町 木曾畑 | 1♂ | 吸蜜(カラスザンショウ) | 山田拓 | |
| 1996 7 30 | 天龍村 坂部 | 1♂ | | 井原道夫 | |
| 1998 5 20 | 天龍村 的瀬 | 1♂1♀ | 吸蜜(センダン) | 井原道夫 | |
| 2000 7 27 | 天龍村 小沢 | 成虫目撃 | 吸蜜(ヒャクニチソウ) | 井原道夫 | |
| 8 1 | 飯田市 上郷黒田 | 成虫目撃 | | 井原原文 | |
| 8 1 | 豊丘村 河野 | 成虫目撃 | | 毛涯章平 | |
| 8 5 | 阿南町 帯川 | 成虫目撃 | | 山田拓 | |
| 8 17 | 飯田市 上久堅 | 1♀ | | 桐生雄介 | |
| 9 13 | 飯田市 追手町 | 成虫目撃 | | 四方圭一郎 | |

*上郷町は1993年に合併し飯田市上郷となった

回の記録から除外した。

発生を確認できたのは天龍村では中井侍, 中組, 的瀬, 福島, 鶯巣 (2ヶ所), 平岡 (3ヶ所) の合計9ヶ所である。天龍村以外では, 飯田市上郷黒田, 飯田市三穂立石, 豊丘村河野で発生を確認した。また, 南信濃村和田にも大きなクスノキがあり, 本種のものらしい食痕が見られたことから発生していた可能性がある。

これらの発生地の中で, 連続して発生が見られたのは天龍村の平岡, 鶯巣だけであり, 天龍村では確実に土着し発生を繰り返している。

食樹としては, ヤブニッケイ, クスノキ, ゲッケイジュ, タブノキの4種を記録した。これらは自生しているものではなく, すべて植栽されたものであることから, 長野県での分布は人為的な植栽行為に支えられていることが分かる。

ゲッケイジュへの産卵は平岡で観察した(図2)。しかし, ゲッケイジュは食樹としては不向きようであり, 若令幼虫時の食痕が少し認められる程度で, 大きく育った幼虫は見られなかった。

表2 アオスジアゲハの発生記録

| 年 月 日 | 場 所 | 記 録 | 食 樹 | 記 録 者 | 文 献 |
|-----------|---------|---------------|--------|-------|-------------|
| 1971 3 14 | 天龍村 中井侍 | 羽化殻3 | ヤブニッケイ | 井原道夫 | 井原・白鳥(1973) |
| 1972 2 27 | 天龍村 中組 | 蛹3(他に死蛹7、羽化殻) | ヤブニッケイ | 井原道夫 | 井原・白鳥(1973) |
| 4 3 | 天龍村 平岡 | 蛹1(他に死蛹、羽化殻) | ヤブニッケイ | 井原道夫 | 井原・白鳥(1973) |
| 6 11 | 天龍村 平岡 | 幼虫確認 | ヤブニッケイ | 井原・白鳥 | 井原・白鳥(1973) |
| 6 25 | 天龍村 鶯巣 | 幼虫確認 | ヤブニッケイ | 井原道夫 | 井原・白鳥(1973) |
| 6 25 | 天龍村 平岡 | 羽化殻確認 | クスノキ | 井原道夫 | 井原・白鳥(1973) |
| 8 25 | 天龍村 中組 | 幼虫・蛹確認 | ヤブニッケイ | 井原道夫 | 井原・白鳥(1973) |
| 9 22 | 天龍村 平岡 | 蛹確認 | ヤブニッケイ | 井原道夫 | 井原・白鳥(1973) |
| 1975 5 | 天龍村 平岡 | 卵確認 | ゲッケイジュ | 井原道夫 | |
| 5 | 天龍村 平岡 | 卵確認 | タブノキ | 井原道夫 | |
| 1980 8 12 | 上郷町 黒田* | 産卵目撃 | クスノキ | 井原道夫 | |
| 8 13 | 上郷町 黒田* | 産卵目撃 | クスノキ | 井原道夫 | |
| 8 16 | 飯田市 立石 | 卵確認 | クスノキ | 井原道夫 | |
| 1988 9 8 | 天龍村 福島 | 幼虫確認 | クスノキ | 井原道夫 | |
| 1994 5 29 | 天龍村 福島 | 幼虫確認 | クスノキ | 井原道夫 | |
| 1999 2 9 | 天龍村 的瀬 | 蛹(寄生)・羽化殻確認 | タブノキ | 井原道夫 | |
| 2000 2 10 | 天龍村 鶯巣 | 蛹(寄生)確認 | ヤブニッケイ | 井原道夫 | |
| 8 2 | 豊丘村 河野 | 幼虫確認 | クスノキ | 毛漕章平 | |
| 8 16 | 豊丘村 河野 | 蛹確認 | クスノキ | 毛漕章平 | |
| 9 2 | 豊丘村 河野 | 1♀羽化・蛹(寄生)確認 | クスノキ | 四方・井原 | |

*上郷町は1993年に合併し飯田市上郷となった



図2 ゲッケイジュに産卵された卵 (→)
1975.5, 天龍村平岡



図3 食樹の葉裏で発見した越冬蛹
1997.3.9, 天龍村平岡

(3) 各地の発生状況

①天龍村 (図2, 図3)

1972年の調査で中井侍, 中組, 鶯巣, 平岡で発生し, ヤブニッケイ, クスノキが食樹になっていた(井原・白鳥, 1973). 1975年の調査で平岡ではタブノキ, ゲッケイジュにも産卵していることを確認した. 1988年には福島で, 1999年に的瀬での発生を確認した. 的瀬では, 植栽されたタブノキを食樹としていた.

②飯田市上郷黒田

1980年8月12日, 13日に筆者の庭でクスノキへ30数卵の産付を確認した. このクスノキは1973年に天龍村平岡から幼木を移植したものである. 産付された卵の

うち順調に成長したものは9月上旬に蛹となった. 食樹下枝の葉裏で蛹化したのをそのままにしておいたところ, 無事冬を越し1981年5月11日1♂が羽化した.. 幼虫を取り込んで室内で飼育したものは9月上旬に蛹となり, 9月17日に1♂が, 9月20日に1♀が羽化, 一部の蛹は冬を越し4月30日と5月9日にそれぞれ1♂が羽化した.

自然状態のまま越冬できたのは長野県では最北の記録である. 2000年には成虫が木の周りを飛んでいるのが目撃されたが, 産卵は確認できなかった.

③飯田市立石

1980年8月16日に産卵を確認した. その後8月31日

に4令幼虫を採集し飼育したところ9月22日に1♀が羽化した。越冬は確認していない。ここのクスノキは1990年代に切られてしまい現存しない。

④豊丘村河野

豊丘村でアオスジアゲハが育っているとの情報を得て、2000年9月2日に調査に訪れた。人家の裏庭に植えられたクスノキの葉裏で寄生され死亡した蛹8個体、および付近の建物で蛹化した蛹から羽化した成虫1♀を確認した。羽化個体は蛹化場所が悪かったため羽化不全の状態であった。寄生された蛹からはヒメバチの1種が出てきた。

クスノキの所有者である毛涯章平氏によれば、「8月1日に庭先のハクニチソウに飛来した成虫を見た。珍しいチョウだと思って図鑑を調べたら、クスノキを食べることを知った。もしやと思い裏庭にあるクスノキを調べたところ幼虫がいるのが分かった。連日気にしながら観察していた。16日に蛹になったのを確認した。蛹のいくつかを採集して羽化を待たしたが、蛹は黒くなって成虫にはならなかった。このクスノキは1965年頃幼木を買ってきて植えたものである」とのことであった。

8月2日に幼虫が確認されたことから、7月に飛来した母蝶によって産卵されたものであると考えられた。

4. まとめ

以上のようなことから、伊那谷南部でのアオスジアゲハの分布は、人為的な植栽木に依存して生息してい

ることが明らかになった。また、天龍村では連続した発生が見られるものの、天龍村以北では偶発的および一時的な発生であることが分かった。

伊那谷ではクスノキをはじめとする食樹を人家、公園などに植栽している場所が少ないことも、分布を規定している要因の一つと考えられる。

しかし、飯田市でも野外で越冬が確認できたことや、2000年の記録が多いことから、今後の分布の動向が注目される種類である。

引用文献

- 浜栄一, 1971, 長野県北と南の採集記. まつむし, 41, 8-18.
- 蛭川憲男, 1991, 長野県南部でのアオスジアゲハの調査および飼育記録. NEW ENTOMOL. 40 (3・4), 36-40.
- 井原道夫・白鳥一樹, 1973, 長野県下におけるアオスジアゲハとモンキアゲハの土着について. まつむし, 43, 34-38.
- 前澤政雄, 1907, 長野県の最南端下伊那郡に於ける蝶類. 昆虫世界, 12 (9), 379-380.
- 榎田長, 1934, 南アルプスに於ける蝶類. 昆虫, 8 (3), 153-180.
- 信州昆虫学会, 1973, アオスジアゲハ. 信州昆虫学会編「信濃の蝶Ⅱ アゲハチョウ科, シロチョウ科」, 84-86, 信学会, 松本.
- 田下昌志・丸山潔・井原道夫, 1999, アオスジアゲハ. 田下ほか編「長野県産蝶類動態図鑑」, 154. 総合文一出版, 東京.